Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

31C-10

慢性疲労症候群に対する補中益気湯と加味逍遥散の併用療法に関する検討

帝京大学医学部　内科
○合地研吾，後藤守孝，川杉和夫，松田重三

【目的】慢性疲労症候群（chronic fatigue syndrome; CFS）は日常生活に支障を来たすような長期にわたる頑固な疲労・倦怠感を主訴とし，さらに感冒様症状や精神神経症状を高率に伴う疾患群である。その病因は不明なままであり，いまだ核心には迫りえず，従って治療法も対症療法に頼らざるをえないのが現状である。今回CFSに補中益気湯と加味逍遥散の2剤を投与しその臨床効果を検討したので報告する。

【対象および方法】対象は厚生省CFS診断基準試案を満たし，かつ複数の精神神経症状を有するCFS症例23例（男性10例，女性13例）で治療開始時のperformance status（PS）は3以上で全例虚証～中間証である。ツムラ補中益気湯エキス顆粒，ツムラ加味逍遥散エキス顆粒それぞれ1回2.5g，1日3回，24週にわたって投与し，全般改善度を含め臨床症状（微熱，咽頭炎，リンパ節腫脹，筋力低下，筋肉痛，関節痛，精神神経症状，睡眠障害など）の改善度を著明改善，中等度改善，改善，不変，悪化の5段階で検討した。

【結果および結論】PSの平均は治療開始時6.9であったが，24週後には4.2まで改善した。また，3段階以上の著明改善を示した症例は9例（40%）に見られた。精神神経症状のなかでは，思考力低下，集中力低下，抑うつ傾向の改善がとくに観察された。効果の出現が早い症例では2剤投与2～4週後に著明改善が見られた。またストレスとの関連で尿中17OHCS，カテコールアミンを投与前後で検討したが有為な変動は見られなかった。投与中投与を中止するような副作用はなかった。CFSの明確な治療法がない現在，とくに多彩な複数の精神神経症状を有するCFS症例に補中益気湯と加味逍遥散の併用療法は試みられてもよい治療法と思われた。

NII-Electronic Library Service